

## 編集後記

我が家にはケヤキの大木があります。高さが2階建ての家の倍以上はあります。ケヤキは小枝を落としながら成長するそうですが、今年は太めの枝が落ちるので心配になって樹木医さんに診てもらいました。伐採も覚悟していたのですが、剪定をすれば保存できるそうで一安心。今年一番の朗報でした。木に登って枝を確認しながら剪定するそうです。落葉樹ですから落ち葉の掃除は大変ですが、夏には木陰を作り猛暑から家を守ってくれます。野鳥が集まり、ムササビが巣を作ったこともあります（木を掘削するので退去していただきました）。私もケヤキも年老いて面倒をみられなくなる日まで、がんばって共存したいと思います。ちなみに切り落とした枝は薪ストーブの燃料として有効に活用します。(N.S.)

ナンシー・フレイザーの名著『資本主義は私たちをなぜ幸せにしないのか』（ちくま新書）が先ごろ翻訳出版されました。読みどころの多い本ですが、特に私の目を引いたのは次の一節です。危機が「歴史的に真の危機となるのは、その社会の参加者がその体験をまさしく危機とみなすときだ。」少子化から地球環境にいたるまで、社会のさまざまなレベルでの問題が「真の危機」とみなされていないように思えるのは、自分を（会社、地域や国ではなく）「社会の参加者」とであると認識することが難しいからではないか、と考えたりしている今日この頃です。(H. S.)

私が勝手に選ぶ今年の3大ニュース・その2

1. A.R.E.：プロ野球開幕してすぐに、近くにいる阪神ファンが「A.R.E.」を連呼していました。最初は何のことやら、頭の中は「？」マーク。最近になってようやく「あ～そういうことね」と理解できました。38年ぶりの日本一だそうで、おめでとうございませう。そういえば、38年前は大阪にいたな～、学校に行ったら同級生たちが狂喜乱舞していたのを思い出しました笑。

2. ジャニー喜多川問題：芸能界には全く興味がないので、ジャニー喜多川の性加害問題を聞いたときは「え、そんなことあるんだ！」とびっくりしました。マスメディアの沈黙が被害拡大の一因と指摘され、検証番組もちらほら散見されました。が、ここ最近では報道数も減り、マスメディアの自己検証も結局はうやむやになるの？と。

3. 物価高：兎に角、ガソリンが高い！いろいろな試薬の値段も上がっている！でも給料も研究費も据え置き。どないすんねん～。でも自分が子供の時は、電車の運賃って毎年上がっていたよな、毎年ストライキをしていたよな、、、値段が数十年も変わらない方が異常？夏に家族で海外旅行に行きました。外食すると、一人3000円はしました。3人だったので、あっという間に1万円が無くなりました・・・とほほ。(E.T.)

今回「音楽の効果」に関しての論文を投稿していただきました。好きな音楽を聴いたり演奏したりすることは、患者さんにとってプラスになります。以前 Jazz 愛好会で、

病院の慰問コンサートを開いたときの話です。演奏のあと、患者さんがドラムの近くに寄り寄ってきて、「少したたかせてよ」って声を掛けて来られました。入院生活で心身共に疲労しているにも関わらず、とてもいい笑顔でドラムを叩いていたのが印象的でした。

ついでに今年の学園祭での話です。授業では決して見せない真剣な顔でピアノ演奏している学生さんを見て純粋に「素敵だなあ」と感じました。その後のセッションに、私も飛び入り参加させていただいたのですが、あれほど緊張したのも久しぶりでした。(K・H)

このような紀要編集委員として仕事をする機会を与えて頂きましたことに心より感謝します。毎年のことながら自分の分野と異なる論文のチェックをするのは自分としても少々力不足な面もあり、本当にきちんとした仕事ができているのであろうかといつも不安になります。今年は中国と日本の小学生の食育に関する調査研究の論文を拝読させていただきました。自分の専門分野外の論文であり、基礎系とはかなり観点が異なっていて、本当にこれで良いのかなどと思いつながりながらかなり四苦八苦したことが思い出されます。コロナの猛威はだいぶ少なくなったとはいえ、みなさんが大変な思いをされており、特に若い方々が自分の活躍の場を広げてゆくにも非常に難しい時代を迎えているということを感じている今日この頃です。今回読んだ全ての論文から先生方の頑張っている姿を感じ取ることができました。これを機会に、私自身も気を引き締めて仕事に励みたいと思います。(Y・M)

前号の編集後記で「新型コロナワクチンの有効性と安全性について」記述しました。それが大変な事になってきています。ワクチン接種後の死亡者は1,500人を超えました。そして、新型コロナワクチン接種後に体調を崩し、「新型コロナワクチン後遺症」なる症状（手足の痛み・しびれ、脱力感、筋力低下、歩行困難、倦怠感、ブレインフォグ\*など）を訴える人が増えてきており大きな社会問題ともなっています。全国各地で「新型コロナワクチン後遺症」患者の会が設立され、それを支援する形で「全国有志医師の会」も活動を開始しています。全国有志医師の会は、新型コロナワクチン後遺症で苦しんでいる患者の治療なども積極的に受け入れています。今後、政府・厚生労働省には、迅速な救済と新型コロナワクチン後遺症の治療法の確立に取り組むことを期待します。

さて、今期は「原著論文」5本と新たな企画の海外出張報告1報を掲載することができました。その原著論文は、大学教員だけでなく、非常勤講師の先生や附属高校の先生からも投稿があり、投稿された皆様方に厚く感謝申し上げます。(K.C.)

「脚注」\*：新型コロナウイルスの後遺症の一つで、まるで頭の中にモヤがかかったようにぼんやりして物事が思い出せない状態を指した症状。